



（写真）大統領府 “マドゥロ政権 カラボボ勝戦記念日の軍事パレードを実施”

2025年6月23日（月曜）

政治

「[米国で拘束された不法移民 犯罪履歴者は28%](#)」

「[行動民主党 グアリコ州ガリド知事らを除名](#)」

「[OAS 新事務局長 ベネズエラについて見解表明
～ベネズエラが独裁国家かどうか議論しない～](#)」

「[ゴンサレス候補の娘婿 6つの容疑で起訴](#)」

経済

「[ベネズエラの原油確認埋蔵量 30%増?](#)」

「[2025年前期 ベネズエラ観光産業72%増](#)」

「[Copa Airline カラカス～パナマ 1日2便に増便](#)」

「[Ecopetrol CITGO へ日量7.9万バレル輸出](#)」

2025年6月24日（火曜）

政治

「[カラボボ勝戦記念日 軍事パレードを実施](#)」

「[～マドゥロ大統領はイベント参加せず～](#)」

「[TPS 失効者 労働許可の延長申請中なら滞在可](#)」

経済

「[GOLD RESERVE OFAC に見解表明求める](#)」

「[～CITGO 保護ライセンスの更新意思を確認～](#)」

「[トルコにそら豆・コーヒー・カカオなど輸出](#)」

社会

「[6月24日 サンファンバウティスタの日](#)」

「[メリダ州、バリナス州など豪雨で道路崩壊](#)」

2025年6月23日（月曜）

政 治

「米国で拘束された不法移民 犯罪履歴者は28%」

ニューヨークのSyracuse大学、「記録クリアリングハウス (TRAC)」が公表したデータによると、トランプ政権2期目が発足してから6月15日までに米国の「移民・関税執行局 (IEC)」は56,397人の不法移民を拘束したという。

この拘束者数は同団体が記録の公表を開始した2019年5月から最も多い人数だという。

トランプ政権は移民対策に注力しており、2期目が始まってから米国への移民流入が急激に減少した。同時に不法移民の拘束が増加しており、公約通り移民対策を実行している様子がうかがえる。

ただし、TRACによると、拘束された56,397人のうち71.7% (40,437人) は過去に逮捕歴のない人だったという。

つまり、逮捕歴がある拘束者は28.3% (15,960人) ということになる。

また、逮捕歴のある28.3%の大半は軽犯罪や「綱を持たずに犬を散歩させる」「魚釣りが許可されていない場所で許可を得ることなく魚釣りをする」「テールライトが光らない状態で夜間に車を運転する」など軽い法令違反による罰金支払いなどだったという。

「行動民主党 グアリコ州ガリド知事らを除名」

主要野党の一角である「行動民主党 (AD)」は、グアリコ州のセルヒオ・ガリド知事およびバルータ市議会議員のホセ・ルイス・バルガス氏を除名することを決定した。

ガリド知事は、2025年5月に行われたバリナス州知事選に出馬し、与党候補に敗北した（知事交代のタイミングは2026年1月なので、ガリド知事は現時点ではまだバリナス州知事）。

ホセ・ルイス・バルガス氏は、7月27日に予定されている市議会議員選に出馬している。

ADは野党のリーダーを務めているマリア・コリナ・マチャド氏の方針に沿って選挙ボイコットを掲げている。

両名はADの方針に従わなかったことを理由に除名されたことになる。



（写真）AD「ガリド知事、バルガス市議の除名を決定」

「OAS 新事務局長 ベネズエラについて見解表明
～ベネズエラが独裁国家かどうか議論しない～」

2025年5月から「米州機構 (OAS)」の事務局長がルイス・アルマグロ氏からアルベルト・ラムディン氏 (元スリナム外相) に交代している ([「ベネズエラ・トゥデイ No.1189」](#))。

アルマグロ事務局長は、米国政府の方針にそう運営を行ってきたためマドゥロ政権を強く批判してきた。一方、ラムディン氏は比較的穏健な立場でマドゥロ政権に対応している。

OAS は、2025年6月25日～27日にかけてアンティグア・バーブーダにて総会を開催する。

総会開催に伴いラムディン新事務局長は、EFE 通信のインタビューを受けて、ベネズエラのマドゥロ政権について見解を表明した。

記者（質問）：

ベネズエラで大統領選が実施されて1年が経過しようとしている。OAS は、マドゥロ政権に投票レシートを公開させることが出来なかった。マドゥロ政権に対して何らかの圧力をかける意思はありますか？

ラムディン氏（回答）：

我々にとって民主主義・人権・国家の権利は最重要テーマです。我々はベネズエラの政府および反対派および全ての関係者との対話を通じた解決を支持し、促進します。

記者（質問）：

OAS 加盟国の中で、いくつかの国は「ベネズエラは独裁政権だ」「対話をするべきではない」と言っています。

ラムディン氏（回答）：

私にとって対話は最も基本的な方針です。

ベネズエラが独裁政権かどうかについて私は議論しません。私にとって重要なのは、民主主義や選挙に問題があれば、将来に向けて、その問題を解決して、政治的な安定性をもたらすことです。

なお、ラムディン氏は2025年6月25日～27日にかけて行われる OAS 総会の最重要テーマは「ハイチで起きている人道危機」と述べている。

ハイチではギャングの暴力が続いており、避難民が増加。ハイチ全土で深刻な飢餓が問題になっている。

「ゴンサレス候補の娘婿 6つの容疑で起訴」

2025年1月7日 2024年7月にベネズエラで行われた大統領選にて、野党統一候補だったエドモンド・ゴンサレス氏の娘婿である Rafael Tudares 氏（下写真の一番左の男性）がマドゥロ政権に拘束された（[「ベネズエラ・トゥデイ No.1162」](#)）。

6月23日 この Rafael Tudares 氏の妻（ゴンサレス候補の娘）である Mariana González 氏は、自身のソーシャルメディア・アカウントにて「Rafael Tudares 氏が6つの容疑で起訴された」と投稿した。

6つの容疑は「偽造、陰謀、テロリズム、結社、ロンダリング、非合法的融資」だという。

「検察庁がベネズエラの裁判所に対して、Rafael Tudares 氏を訴え、6月13日にベネズエラ裁判所が検察庁の起訴を受け入れた」と補足している。



（写真） Al Navio

なお、Rafael Tudares 氏について過去に「エドモンド・ゴンサレス候補の甥がバイデン大統領の補佐役を務めている」とのニュースが拡散されたことがある（[「ベネズエラ・トゥデイ No.1089」](#)）。

当時、このニュースで「Rafael Tudares 氏はゴンサレス候補ともベネズエラとも関係がない」と報じられ、フェイクニュースだったと断定された。

しかし、少なくとも Rafael Tudares 氏はゴンサレス候補ともベネズエラとも関係のある人物だったということは判明しており、「フェイクニュースだった」という報道がフェイクニュースだったということになる。

経 済

「ベネズエラの原油確認埋蔵量 30%増？」

6月23日 マドゥロ大統領は、ベネズエラの原油確認埋蔵量が30%増加したと発表した。

「ベネズエラは世界で最も原油確認埋蔵量の多い国である」「私はこの原油確認埋蔵量が更に30%以上増えたことを発表する」とコメントした。

また、ガスについても「ベネズエラは世界で4番目にガス埋蔵量が多い国だが、この数字も確認中である」と補足した。

マドゥロ大統領は、「石油産業についてもガス産業についても投資の門戸は開かれている」と言及し、外国の投資を求めた。

「2025年前期 ベネズエラ観光産業72%増」

Leticia Gómez 観光相は、ロシアのサンクトペテルブルクで開催された「経済フォーラム」に参加。

2025年前期（1～6月）のベネズエラの観光産業が前年同期比72%増加したと発表した。

観光産業は、マドゥロ大統領が掲げる「7つの産業原動力」の1つとなっている。

Gómez 観光相は、「ベネズエラは、経済多様化のプロセスを進んでおり、観光は最重要テーマの1つとなっている」「ベネズエラは各国と二国間合意を締結し、国ごとに観光分野の協力プログラムを作成している」と言及した。

なお、ロシア政府とベネズエラ政府は観光促進に関する合意を交わしており、8月からベネズエラ国営航空会社「Conviasa」が「モスクワーカラカス」「モスクワーポルラマル（ヌエバエスパルタ州の観光地）」の2ルートのチャーター便を運航する予定となっている（「[ベネズエラ・トゥデイ No.1227](#)」）。

「Copa Airline カラカスーパナマ1日2便に増便」

5月23日から約10か月ぶりにベネズエラーパナマ便が再開している（「[ベネズエラ・トゥデイ No.1220](#)」）。

両国の国際線再開から1カ月が経過し、パナマの航空会社「Copa Airline」は、カラカスーパナマシティ便を現在の1日1便から2便に増便すると発表した。

6月23日以降のフライトスケジュールは以下の通り。

Caracas – Ciudad de Panamá 1:32 p.m.

Caracas – Ciudad de Panamá 4:11 p.m.

Ciudad de Panamá – Caracas 9:03 a.m.

Ciudad de Panamá – Caracas 11:36 a.m.

料金は時期によって異なるが、原則以下の通り。

- ・エコノミー・ベーシック: \$299,40
- ・エコノミー・クラシック: \$392
- ・エコノミー・フル: \$1,289
- ・ビジネス・プロモーション: \$1,031,80
- ・ビジネス・フル: \$2,224,30

なお、Copa Airline に加えて、「Venezolana de Aviación（火曜と金曜）」および「Aerolíneas Estelar（火曜と金曜）」もカラカス・パナマシティの運航を再開している。

「Ecopetrol CITGO へ日量7.9万バレル輸出」

コロンビアの政府系石油会社「Ecopetrol」と米国にあるPDVSA 関係者 CITGO（現在は野党がコントロールしている）との取引が拡大している。

2025年第1四半期、Ecopetrol は CITGO に対して日量79,063バレル（前年同期比104%増）を輸出し、CITGO にとって最大の原油・石油製品供給元となった。

なお、25年第1四半期に CITGO が輸入した原油・石油製品の量は日量119,600バレルで、原油の81%、MGBG（ガソリン生産に必要な添加剤）の19%が Ecopetrol からの輸入ということになる。

また、Ecopetrol にとっては、37%の輸出が CITGO 向けということになる。

2019年 CITGO のコントロールが野党に移ってから CITGO は PDVSA からの原油・石油製品の調達を停止し、他社からの調達に切り替えた。

2025年6月24日（火曜）

政治

「カラボボ勝戦記念日 軍事パレードを実施」

6月24日は、ベネズエラでは「カラボボ勝戦記念日」で国民の祝日である。

「カラボボ戦闘記念日」とは、1821年6月24日に起きた、独立戦争中の戦いでの勝利を記念した日。

同日スペイン軍とベネズエラ独立軍が戦闘。

この戦闘での勝利を受けて、ベネズエラは独立に大きく近づいたとされている。

2025年はカラボボ勝戦記念日から204年が経過した年にあたる。

同日の軍事パレードにはマドゥロ大統領は出席せず、デルシー・ロドリゲス副大統領が出席した（1ページ目の写真参照）。

他、パドリーノ・ロペス国防相、ディオスダート・カベジョ内務司法相、ホルヘ・ロドリゲス国会議長らも出席した。

パレード自体は特筆するほど大きな問題や発表などなく終了している。



（写真） VTV

「TPS 失効者 労働許可の延長申請中なら滞在可」

「ベネズエラ・アメリカ議員連盟」の Adelys Ferro 氏は、「一時保護資格（TPS）」が失効し、米国での合法的な労働ができなくなっているベネズエラ移民に対してアドバイスをを行った。

TPS は、当該国の武力紛争や自然災害などを理由に、人道的な知見から米国での合法的な滞在、就労を認める制度。同制度により約35万人のベネズエラ人が米国での滞在を許可されている。

2025年2月3日 Kristi Noem 国土安全保障長官は、米国に住むベネズエラ移民に対して発行していた TPS の延長を停止すると発表。

紆余曲折を経て、最終的に米国最高裁は TPS の失効を許可しており、TPS により米国で滞在・労働している人々が米国からの退避を余儀なくされている。

Ferro 氏は、「TPS 失効者であっても2025年2月5日以前に労働許可の延長を申請していた場合は、その申請の結果が出るまで国内で滞在・労働が可能」とのアドバイスをしている。

該当するベネズエラ移民は、労働を続けるため会社に対して

「国土安全保障省（DHS）の TPS に関する公式情報をプリントした紙」

「TPS の労働許可証（25年4月に失効したもので可）」

「2025年2月5日以前に労働許可の延長を申請したことが確認できる書類」

を提出する必要があるという。

経 済

「GOLD RESERVE OFAC に見解表明求める
～CITGO 保護ライセンスの更新意思を確認～」

6月24日 ロイター通信は、「GOLD RESERVE」が「外国資産管理局（OFAC）」に対して、CITGO の保護措置の延長について見解を表明するよう求める申請を行ったと報じた。

前号「[ベネズエラ・トゥデイ No.1233](#)」で紹介した通り、OFAC は、6月20日に CITGO を保護するために制裁ライセンス No.5（No.5-S）を更新。

12月20日まで CITGO を債権者から保護することを決めた。

ロイター通信によると、GOLD RESERVE は、OFAC に対して今後も同ライセンスを延長する意思があるのかどうかを説明するよう求めたという。

GOLD RESERVE は、ベネズエラで金鉱山「Las Cristinas」の開発を行っていたが、故チャベス政権時代に接收を受け、11億ドルの賠償金の請求権を勝ち取っており、この賠償金の一部を CITGO の持ち株会社 PDV Holdings の競売を通じて回収することが許可されている。

しかし、制裁ライセンス No.5 の存在が PDV Holdings の競売の障害になっている。

「トルコにそら豆・コーヒー・カカオなど輸出」

6月16日～17日にかけて、トルコのイスタンブールでベネズエラ展示会が開催された。

「トルコ・ベネズエラ独立企業連合（Musiad-Venezuela）」の Hayri Kucukyavuz 代表は、同イベントにベネズエラ企業30社が参加し、トルコ企業との商談を行ったと説明。

この商談の結果、ベネズエラからトルコに向けて様々な商品が輸出されることが決まったと述べた。

具体的な品目として「そら豆」「コーヒー」「カカオ」「魚介類（エビ、イカ、タコ）」などを挙げた。特に「そら豆」については既に3000トンがトルコに向けて輸出されることが決まったという。

なお、Kucukyavuz 代表によるとベネズエラにはトルコ語を習う学校が3校あるようで、800人のベネズエラの若者がトルコ語を学んでいるという。

社 会

「6月24日 サンファンバウティスタの日」

「サンファンバウティスタ」は、6月23日夜～24日にかけてベネズエラで行われる宗教行事。

赤と白の服に身を包んだ人々が太鼓のリズムに合わせて踊る行事である。

18世紀にスペインが送り込んだアフリカの奴隷移住者が始めたが、キリスト教行事と混ざり独特な宗教行事となった。

2021年12月14日にユネスコはベネズエラのサンファンバウティスタを無形文化遺産に認定している（「[ベネズエラ・トゥデイ No.691](#)」）。

関心のある方は YouTube 「[La Fiesta de San Juan Bautista en Chuao Venezuela](#)」を確認されたい。



（写真） REIMICIA

「メリダ州、バリナス州など豪雨で道路崩壊」

6月24日 メリダ州、バリナス州、トゥルヒージョ州にて豪雨が発生。一部地域では道路が崩壊するなど大きな影響が出た。

豪雨を受けて Ramón Velásquez 交通相は、緊急対策を発表。道路の崩壊状況の確認及び、復旧に向けた活動を開始すると説明した。



（写真） Globovision

以上